

兄貴へ

ラジオネーム：ピクルス

「ここ最近ぐっと暖かくなってきて春の終わりを感じられるようになってきた兄貴、天国でも元気にやってるかい？兄貴と僕は小さなころから仲が良くていつも一緒にいた。遊ぶときはいつも近くの公園。ぼろっついバスケットゴールがある小さな公園だった。思い出されるのは、兄貴が中学校にあがり、バスケットボール部に入部しあいの公園で練習につき合わされていた日々、兄貴はなぜか僕も中学校に上がったらバスケットに入る前提でどんどん覚えてたことを教えてきていたよね。僕は吹奏楽に入りたいんだよね。なんて思いながら、練習に付き合っていた。それでも昔から外で遊ぶのが好きだったので楽しい日々だった。そうこうしてボールを触ってるうちになんだか自分もバスケットに入って、もっと上手になって試合に出てみたくなった。結局中学校に上がるのと同じ時にバスケット部に入部し、兄貴と練習に打ち込んだ。最初は兄貴との1対1は全然勝てなくて、10回1回くらいしか点を取れなかった。兄貴は大好きな兄弟であり、絶対に負けたくないライバルでもあった。はじめた勝ち越した時の喜びはいまでもはつきり覚えているよ。あの後兄貴がちょっと不機嫌になったもんね。

でもそんな兄貴は高校生の時に事故で亡くなってしまった。高校に行っても一緒に練習したかったのに、また「対」で勝負したかったのに、うまくなった姿を見せたかったのに。そんな後悔や未練ばかり残る。まだ当分先にはなるけれど、いまよりずっと上手になって兄貴に会いに行くよ。ちゃんと練習していないと僕に勝てなくなっちゃうかもね。

〈世界が終わるまでは／ワンス〉